

～目的と手段とを適切に紐づけ、「デジタル」と「アナログ」の長所を最大限生かすために～

改正省エネ法も見据えた

遠隔監視・自動化等、「次世代型エネルギー管理」への対応も視野に入れて――

計測と見える化の手法

「省エネ法：工場等判断基準」では、エネルギー管理のための計測（及び記録）が求められています。その意図を「蓄積されたデータからエネルギー使用の現状を把握し、ムリ・ムラ・ムダがないか評価し、改善（最適化）するため」と定義するならば、そのためのデータの把握が必要不可欠であることは明白です。すなわち、省エネという「目的」の実現には、そのデータから改善活動のネタが抽出できるのか、当該データの分析等を通じ、今取り組んでいる改善活動を適切に評価できるかなど、「手段」としての計測の価値を少しでも高める意識が必要です。

本講座では、斯様な視点——「**使える計測（及び記録）で現場を見える化！**」をキーワードに、省エネ推進に必要な変数、計測頻度と経済性、計測技術や計測点、そして集計・整理・分析の着眼点などを、「デジタル化」といった昨今のトレンド・事例も意識し、わかりやすく解説します。 講師：（一財）省エネルギーセンター 省エネ技術本部 技術支援センター 技術普及部 マネージャー 鈴木 伸隆

- **主なカリキュラム** ● 講義時間は約4時間38分です。
視聴期限は1ヵ月で、その間何度でもご視聴いただけます。

- 0. 改正省エネ法をも見据えた基本的視点** (90分) ●エネルギー消費の「根本的構造」を考える ●改正省エネ法施行と計測・見える化 ●新たな「外的要因」の認識 ●非化石エネルギーの管理と計測
- 1. 計測に着目したエネルギー管理の基礎** (89分) ●計測の実務：「これまで」 ●計測の実務：「これから」
●計測の実務：「これから」
- 2. 計測の要否の見極め方** (61分) ●そもそも論：「計測」の要否に関する配慮事項（例） ●省エネ推進に必要な「デジタルデータ」取得法 ●「計測が不可欠な設備」を考える
- 3. 省エネのための計測及び記録の技術** (21分) ●絶対に忘れてはいけないこと ●計測データの「目視」
●電力計測データのフル活用
- 4. 計測データの見える化事例** (17分) ●「影響別」見える化 ●「見せる化」の工夫 ●「見てるか？」

● 受講要領 ●

● **受講条件**：ZOOMによる動画配信講座です。インターネット環境の整ったパソコンやタブレット等をご用意ください。事前に[こちらの動画](#)が試聴できる事をご確認の上、お申し込み下さい。なお、Web会議・セミナーのアプリ等のダウンロードの必要はございません。

● **受講料** (税込)： 一般：27,500円
賛助会員：22,000円

● **申込方法**：下記のURLをクリックし、表示された申し込みフォーム（Googleフォーム）よりお申し込みください。

右のQRコードからもお申込できます。

<https://forms.gle/cVcp1d6Pm9pi1fkX6>

● 注意事項

お申し込み翌日から3営業日以内に「受講案内」をメールにてお送りいたします。

受講テキストおよび請求書は郵送にて送付します。

なお、動画のご視聴はお申し込みいただいた方に限らせていただきます。



こちらは講座の紹介動画です。
(YouTube)



お申込みフォーム

※ 同名の講座を各支部で開催しておりますが、同じ内容です。